

G3 のツイッター その9

烈剛河内 竹井 保満

本誌の12月号で熊倉さんの投稿を拝見し、つい同志と叫びたくなりました。
大阪での、全日本ベンチ大会でお逢いしてお話が出来ればと、楽しみにして居ましたが、叶いませんでした。今回の大会の参加者でM4の選手は、軽量、中量級に集まり、14名で、重量級は皆無で105キロ以上はM4はおろかM3も居りませんでした。宮本会長の開会のご挨拶でも、パワーリフティングは生涯スポーツですと強調されましたが、継続とは難しい事だと思います。

今回の大会で私は、M4、66キロ級で、5人中5位でした。世間では、16歳～13歳の年の差があれば、当然の事と思いますが、石井先生に受けた講義によれば骨格筋に起こる力は筋肉に比例し、老若男女を問わず同じだそうで、筋力は、化学的に発生するとの事です。主に脳からの収縮指令によって、筋原線維の周りにある筋小胞体からカルシウムイオンが放出され、この筋収縮の指令になり、アクチン、ミオシンの両筋繊維がお互いに滑り込みを始めると力が起こります。そのエネルギーはアデノシン三リン酸が分解されることにより起きる云々と、と成ると、やはり私の力が出ないのは筋肉は見せかけで、老いた牛の霜降り肉の状態なのかなと思います。

先月、アンチエイジングのゼミナールの案内がきました。秦の始皇帝は、不老不死の薬を求めました。私は、そのような大それたことは望みませんが、アスリートとして、あと14年、百歳まで出場できる様に、色々な勉強をしてと思い出席しました。

ゼミの概要は、自己多血小板血漿（platelet-rich plasma）の創傷治療促進効果、組織再生効果に着目した治療が進んでいます。この効果を美容医療に利用したゼミでした。えらい筋違いなものに首を突っ込んだと一瞬戸惑いましたが、何でも見てやろうの野次馬、イヤ好奇心で、講義と実習を受けました。試験管に血液を採り、遠心分離器にかけ、血小板のみを取り出します。その血小板を、髪の毛ほどの細い針の付いた細い注射器で、顔の小皺やたるみのある場所の真皮に約0.025mlを5mm四方ぐらいごとに万遍なく注入します。二ヶ月後に効果が表れるのだそうです。さて、この老体に万遍なくこの治療を施し、若者に仕立て直したら、はて、何千万円かかるのでしょうか。

新しい年を迎えても、好奇心いっぱい、やる気満々、霜降り肉と決別、アンチエイジングの実現へ、七芸の螻蛄（おけら）さん見ててね。